

アジアの友

The Asia-no Tomo

2-3

FEBRUARY-MARCH

2012

留学生の就活 番外編

座談会「私たちの就活と日本留学」



訃告

当協会の前理事長・田井重治氏が2月16日午前1時8分、板橋区の愛誠病院で心筋梗塞のため逝去されました。

1995年理事長の職を辞して後、しばらく顧問として週2日ほどアジア文化会館(ABK)に通勤。しかし、1985年、63歳の時に東京医科歯科大学で心臓手術を受け回復、復職するも9年後の1994年には狭心症で葛西循環器病院に入院、手術後再び墨東病院に移りバイパス手術を受ける。その後は墨東病院での通院治療を行っていたが、徐々に歩行に支障を来すようになったためABKからも遠のき、自宅近くの病院に変えて通院治療を。一昨年から板橋区内の愛誠病院付設のシルバーピア加賀に移り介護を受けていたが、この2月に入って腎臓機能が低下し、愛誠病院に移り回復せぬまま永眠された。享年89歳。

田井氏は、1922年(大正11年)台北市生まれ、旧制中学は鹿児島で終え上京、1944年明治大学経営学部卒、1943年学生時代に穂積五一氏の主宰する至軒寮(戦後「新星学寮」と改称。(財)アジア学生文化協会設立の母体となった。)に入寮、爾来一貫して穂積氏と行動を共にする。1957年当協会創立に加わり、1981年穂積理事長逝去後専務理事に就任、第2代理事長大河内一男氏を支えた。氏の逝去に伴って1985年～1995年まで理事長を務めた後は、協会顧問、理事の任に。

至軒寮、新星学寮、アジア文化会館(ABK)を通じ、たくさんの日本人学生、留学生と親しく交わりお世話をされ、大変慕われておりました。急なご逝去でお知らせできない方々が多々おられます。深くお詫び申し上げると同時に、故人のご冥福を心からお祈りし、ここに謹んでご報告申し上げます。

2012年2月
財団法人アジア学生文化協会



ABK日本語学校第一期生達に囲まれた田井前理事長(ネクタイ姿) 一九八三年撮影



月刊 アジアの友

2012年2-3月号 第495号

目次

巻頭

- 4 留学生の就活 番外編
座談会「私たちの就活と日本留学」

おたより

- 12 小木曾友様へ
「保証人やホームステイをした留学生とその消息」
竹田和子様

インタビュー

- 20 沖縄で学ぶ！ 国際言語文化センター附属日本語学校

MEMBERS

- 26 ご入会、ご寄付のご報告（2011年12月、2012年1月）

募金途中報告

- 27 ABK 同窓生募金（2012年1月31日現在）

<表紙> 第4回 ABK 日本語学校修了式記念写真。
田井重治 前当協会理事長（前列左から6人目）を偲んで。

留学生の就活 番外編

座談会「私たちの就活と日本留学」



マイケルさん



リーさん



曹さん

★ Michel Tiong Hoe Hee (マイケル ティオン ホー ヒー) ～マレーシア

東京大学大学院修士・工学研究科 精密機械工学専攻 (マレーシア政府奨学生)

★ Nguyen Cam Ly (グエン カム リー) ～ベトナム

東京大学大学院修士・情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻 (文部科学省奨学生)

★ Cao Xin Jue (曹 心覚) ～中国

東京大学大学院修士・工学研究科 建築学専攻 (民間奨学金受給)

この春、東京大学の大学院修士課程を卒業し、日本で就職する3人にお集まりいただき、就職活動(就活)のお話を中心に日本留学の意義や問題点などについて語っていただきました。3人は共に来日7年、修士課程修了後は日本で就職することを希望して、日本就活の洗礼を受けて、それぞれ希望する会社をいとめました。また、3人とも来日前、あるいは来日後すぐに奨学金を受け、大きな生活面での不安が少ないという、恵まれた留學生活が送れたということで、学業と就活に精力を注ぐことができたと言えるかも知れません。

日本留学の意義

—— まずみなさんの、日本留学の経緯を教えてくださいませんか。

マイケル 僕はマレーシアで高校を卒業後、マレーシア政府の奨学生試験に合格し、2005年日本に来ました。来日後は明石工業高等専門学校で3年間勉強してから大阪大学工学部の3年生に編入し、卒業後は東大大学院に進学しました。専門は精密機械です。

リー 私はベトナム工科大学の2年生の時に日本政府の奨学生試験に受かり、2005年日本に来ることになりました。日本に来て最初

の1年間は大阪大学外国語学部の日本語日本文化教育センターで日本語を勉強して、その後大阪大学基礎工学部情報科学科に入学し、卒業後東大の大学院に進学しました。

曹 私の中国の高校は設立時から日本語に力を入れている学校で、卒業後はほとんどの人が日本に留学するような学校です。高校のうちに日本語能力試験1級も取得してます

し、自然な流れで日本に来たという感じです。日本には2005年の10月に来日しABK日本語学校で半年ほど日本語を学んだ後、東大の工学部に入学し、修士までずっと建築を学びました。

—— 世界70億の人口のうち、わずか1億2千万人しか使っていない言語を苦勞して学ぶことの意義は何でしょう。

マイケル その1億の重要度の割合は高いですね。僕の考えでは、中国語、英語、次が日本語じゃないかなと思います。だから日本語ができて良かったと思うことはたくさんありますね。例えば、若い日本の研究者などで、英語があまり得意でない人は国際論文を投稿しても落とされてしまいますから、その知識が日本に止まっています。それは本当にもったいないことなのですが、日本語が読めればそういった貴重な論文を読むことが出来ます。それはとても価値があることなんです。

リー ベトナムの場合は、日本と非常に関わりが深いのですが、日本語が出来る人は多くありませんから、日本語が話せるというのはとても価値のあることだと思います。



就活は日本留学のデメリット？

—— では日本留学のデメリットのようなものはありましたか。

マイケル デメリットとしては、これは最近感じたのですが、就活がデメリットかなと思います。明らかに学業に影響を及ぼしている。それは就活の時期もそうですし、注いだ力の点でもそうですね。

曹 就活を始めるのは修士に入学して半年後くらいからです。学部生だと2年生の半ばくらいから就活がはじまりますから、学部卒業後に就職する人は大学で何を勉強したのかわからない頃から就活を始めないといけない。

リー 就活中は全然勉強できませんからね。周りの人を見ると、ちゃんと真面目に勉強している人は就職試験を何度も落ちていて、逆にあまり勉強しないで、就活を中心に行動している人は簡単に受かっているように思える。何かおかしいなあという気がします。

—— 日本の就活開始時期は学業に専念しようと思うと支障が出ると言われていますが、みなさんの国ではどうなのでしょう。



マイケル マレーシアでは卒業してからです。卒業後、企業に履歴書を出して面接に呼ばれて・・・という流れで、修了証がないと面接はしてもらえません。早く採るのはインターンシップだけ。学部3年生で内定というのは無いとは言えませんが、稀ですね。

リー ベトナムも同じです。

—— 就活については、また後ほかがしたいと思いますが、他に日本留学のマイナス面、例えば日本に来て英語力が落ちたということはありませんか？

マイケル それは確かにあります。でもマレーシアは英語を喋る環境はたくさんあるのですが、知識を得るための環境が整っていないという問題があります。例えば日本の場合、大きな書店に行くとハイレベルの英語教本がたくさんあり、そういった本は2時間もアルバイトをすれば1冊買えますが、マレーシア

なら何時間もアルバイトをしないと買えない。つまり良い本はとても高くて普通の人は簡単に買えませんから、きっちりした知識を得る機会が少なくなる。日本はそうした機会を簡単に手に入れられますから、そういった意味では英語をきっちり学ぶ機会が多いと思います。

リー 私はもともと英語は得意ではなかったのですが、論文を書くときは全て英語ですし、参考文献も英語です。だけど、日本に来ると、まず日本語を勉強しないとイケませんから、英語を勉強する時間がなかなかとれないという問題がありますね。

—— 英語を使う機会、学ぶ機会が多いけど、学ぶことがたくさんあり、時間がないということですね。曹さんの日本留学は どうでしたか。

曹 日本留学のメリットは、全体として安心して留学生活が送れる環境が整っているということだと思います。例えば国費だけではなくて、私費留学生に対する経済面での支援という点でも、日本は欧米より奨学金が充実していると思います。こうしたことは日本政府も宣伝していませんから、一般的には認識されていないと思います。また日本の人は丁寧で優しいので、困った時、真剣に相談に乗ってくれる人が必ず現れます。簡単な例としては、日本語があまりできない友達が道に迷った時、近くの人に聞いたら、その人がそこまで案内してくれたとか。そういった環境がいいんですね。しかも安全な国で、親があまり心配する必要がない。文化的にもアジアの人はあまり違和感を感じないと思いますから、暮らしやすいと思いますね。ただ、少し違うのは、日本人は本音と建前の差がほかのアジ

アの国より大きいと感じます。

コミュニケーションは難しい

——日本語で困ったことはありますか。

マイケル 来日前、マレーシア工科大学で日本語を2年間学んでから来日しましたが、最初関西に住んだため、関西弁のイントネーションやアクセントが全然わからなくて困りました。向こうでは優しいホストファミリーと出会い親しくしていたのですが、そのご家族が60歳後半で一度も関西を出たことのない人ですから、容赦ない関西弁なんです。大好きなのですが、電話がかかってくるのが怖かったですね（笑）。

リー 来日して最初の1年間はあまり日本語ができなくて、外に出ても何もわからない、電車の乗り方も理解できなくて、怖かったですね。1年間日本語を学んで、一応日本語ができるようになった後も、大学に入った最初の1年間は授業がさっぱりわからず、教科書を読んでも復習にかなり時間を使いました。

マイケル 僕も来日当初は本当に授業が聞き取れませんでした。専門用語もわからなかったもので、部屋に帰って専門用語を声に出して読むという発音練習を何度もしました。そうやって発音をマスターすると、授業もだんだん聞き取れるようになっていきました。ただ、今でも先生とのディスカッションで、たまに話がずれる時があります。これは言葉の問題だけではなくて、文化や価値観の問題もあるのだと思います。例えば「これをきちんとやってください」と言われた場合、どこまでやるのかという意味で、日本とマレーシアではその範囲に対する認識が違います。何度か苦い経



験があります。そういう意味では、日本語が出来るようになるだけでは、日本人とのコミュニケーションはとれないということですね。

——曹さんは日本語の苦労はそれほど無かったのではないのでしょうか。

曹 私は授業は大丈夫でしたが、クラスの友達が話す若者言葉がわからなくて、うまくコミュニケーションがとれない時期がありました。だんだん慣れていきましたが、最初は苦勞しましたね。

マイケル 日本人とのコミュニケーションでは日本語もそうですが、もっと大事なのがコミュニケーションですね（笑）

——飲み会が始まるのは大学院になってからですか？

リー 学部も4年生になると、多くなりますね。私は全然お酒は飲めませんし、お金もかかるので好きではないのですが。



マイケル 参加すると、3000円～4000円くらいかかりますよね。

リー それに、日本人は研究室にいる時と、飲みに行った時とでは全く別人みたいで戸惑います。

曹 うちの研究室はそれほど行きませんが、やはり全体的には行ってますよね。飲んだ後のテンションが飲む前と違うのはわかるんですが、日本人はその差が激しいですね。

—— 飲み会で、普段話さない日本人と親しくなったと思ったら、翌日全く違う態度をされて愕然とした、という留学生の話もありますね。その他困ることはありましたか？

曹 例えば部屋探しの時に、日本人の大家さんは外国人に貸したがる。また、私たちには保証人もいませんから、保証会社か大学に頼むわけですが、この手続きがとても面倒くさいんです。

マイケル 外国人は、友達をたくさん集めて大きな声を出さうるさいということで、敬遠されることもあります。特に東京の場合は家と家が近いから大きな声で話すと周りからうるさいと苦情を言われることも。そういった生活面はどうしても慣れないところですね。

自由がゆえの難しさ

—— では学業面、修士での勉強というのはいかがでしたか。

マイケル 東大はけっこう自由でしたね。反面、先生は忙しかつたので、ディスカッションする時間がなかなか取れませんでした。

曹 ほんとにそうですね。

マイケル これは僕の考えですが、先生の大きな仕事は研究資金を取りに行くことなんだと思います。修士生でも研究費は十分にありますが、本当に自分でコツコツ出来る優秀な人にとっては、東大はとても恵まれた環境だと思います。逆にそうでもない人、例えばプログラミングがあまり得意ではなく、途中で行き詰まってしまうような人は大変かもしれませんね。

—— つまり先生には会いたい時になかなか会えないということですね。

マイケル そうですね。時間的に見れば、先生と直接話せる時間は本当に少ないと思いますが、先生は本当にエキスパートで賢いので、短時間でも学生にどんな問題があるのか、すぐに見抜いて適切なアドバイスをしてくれます。ただ、壁にぶつかって今すぐアドバイスが欲しいという時はつらいですけど。

—— 東大は他の大学に比べて先生が忙しいのでしょうか。

マイケル そうですね。それは東大ですから仕方ありません。ただ先生に簡単に会えないというのは悪い面ばかりではなくて、僕の場合、自分をどう成長させるか、どう進むべきか、ということを大学院に入って初めて考えられるようになりました。おそらく先生も、そういった目的を持って学生を突き放しているところがあるのではないのでしょうか。結果はどうなっても、とりあえず本人の自力でやらせる。僕は学部の時も研究をしていましたが、修士の2年間はそれに比べて、学ぶためのスキルと研究に対する意義への理解がとて高くなったと思います。

リー 東大は国際学会などにも参加しやすいですね。修士でも、時には学部生でも行けますから。

曹 東大では学会の他に、よく短期留学的な1～2か月単位の国際交流プログラムに参加するチャンスがあるのですが、そういったプログラムに応募するのは留学生が多くて、日本人学生はあまり積極的に参加しませんね。

リー 3～4日の学会には日本人も行きますが、研修のような長いものだと、日本人は海外にあまり行きたがらないようですね。友達の話では、東京は便利だから離れたくないとか、英語を使うのが大変だから、あまり行きたくないということでした。

—— 日本人学生が内向きになり、海外留学が減っていると言われてますが、そういったところにも現れているわけですね。

就活成功の秘訣は

—— では、就活の話に移りましょう。先ほど就活の時期の話が出ましたが、具体的に

みなさんはいつ頃からはじめていつ頃内定をもらったのでしょうか。

曹 私は修士1年生の10月くらいに就活をはじめて、2年生になる前の3月に決まりました。その時点では「内内定」なんですけど、その年の10月に内定式で「内定」になり、卒業後に「採用」になるわけです。

マイケル 僕も10月にはじめて3月に決まりましたから就活にかけた期間は半年ほどです。ただ、夏休み中にある各企業のインターンに申し込むのは7月ですから、それも含めると就活期間はもっと長くなりますね。

—— インターンというのはどのようなものですか。

曹 実際に会社に1週間～2週間入って働いてみるというものです。今はインターン制度を行っている会社が多いので、自分の希望する会社や業界に応募して、自分にその会社がマッチするか試すことができます。通常は無給ですが、アルバイト代を出してくれる会社もあります。

マイケル インターンをした会社そのまま就職をする人も多いですね。

曹 だからインターンの応募倍率は、けっこう高いんです。

—— では、ずっと真面目に勉強して、修士2年生の夏休み頃から就活を始めるというのでは、遅すぎるのでしょうか。

マイケル 決まりにくいでしょうね。成績が良ければ先生に推薦を出してもらうこともできと思いますが、もう大手企業の募集はありません。ところでリーさんは自分の学科や研究室で大手企業への推薦などはありましたか？

リー 学科にはありましたが、研究室ごととは

ありませんでした。でも推薦をとっても、面接が何回もあるので、確実に入れるとは言えませんね。

—— 次に、差し支えなければみなさんの内定先を教えてくださいませんか。

マイケル 僕はGEという外資系の会社に決まりました。正式に言うと、採用されたのはGE International Inc.で、配属先が日本ということになります。

—— GEといえば福島最初の原子炉はGEから導入したんですね。

マイケル そうですね。東芝とGEと一緒にやっています。僕が配属されるのはGEの古いビジネスの一つで、ガスタービン扱う部門です。地震以降東電はGEからたくさんガスタービンを導入しているそうで、設置やメンテナンスといった仕事が増えているそうです。

—— なぜ外資系企業を選んだのですか。

マイケル 雰囲気が好きだったんですね。自由な環境というか、内定式にスーツを着ないといけないような、そういうルールはあまり好きではないんです。日本企業も受けましたが、やはりオープンな雰囲気のところを選びました。



—— リーさんと曹さんはいかがですか。

リー 私は研究開発ができるところを探していましたが、東芝の研究開発センターに決まりました。

曹 私は将来、中国に戻りたいので、中国に進出している企業に絞って就活しました。今中国に行っている日本の建設業者はいくつかありますが、運良く鹿島建設から内定をいただきました。実は日本の建築業界は全体としてはあまり中国に進出していないんです。この業界はだいたいどこも自分の国が一番強い。日本でも外国の建設企業の名前はあまり聞きませんよね。

—— 今の留学生はどのようにして企業とコンタクトをとるのですか。

マイケル まずこの企業に行ってみたい、説明会の情報が欲しいという企業に対して、ネットで個人情報を入力して申込みをします。企業の検索は、知っている会社であれば直接その会社のサイトに行きますし、そうでなければ「リクナビ」などの就活サイトを利用します。僕の場合は「TOP CAREER」とか「JABOON」といった留学生専用の就活サイトも利用しました。企業から返事があったら、今度は自己PRや応募動機などを書いたエントリーシートを提出し、面接や試験を受けることになります。

曹 私の場合は中国に進出しているかどうかのポイントだったのですが、そういった情報は最近のニュースを見ていればわかるので、あまり探すのに苦労はしませんでした。

リー 私はネットの情報はあまり見てなくて、大学に来る企業のリクレーターから就職試験の情報を知りました。

—— 試験はどのようなものでしたか。

リー 面接と、WEBの適性テストがありました。

—— 最近はWEB上でのテストが多いのでしょうか。

マイケル 多いですね。WEBテストはきちんと練習すれば誰でも出来ます。GEではWEBテストはなくて、エントリーシートと面接とグループディスカッション、それに大学の物理、数学のテストがありました。物理と数学はまさに今自分が勉強しているものなので、良かった。

リー ほとんどの日本の会社は選考する際、大学の成績は関係ないようですね。

マイケル SPI (Synthetic Personality Inventory) などの適性試験はしますが、学校の成績は見ませんね。

—— 成績を見ないというのは、就活時期の問題もありますが、やはり疑問ですね。では就職試験を受けるにあたって心がけたのはどんなことですか。

曹 謙遜な態度ですね。

マイケル グループディスカッションの場合は自分をアピールすべきだと思います。

曹 そうですね。でも日本企業の場合は、会社に入ってから、もっと勉強したいという意欲を謙虚に示すことが大事なのではないかと思っています。

リー 研究職の場合は面接が一番重要で、自分がしっかり研究できる人間だということ、経験もたくさんあるということをはかにアピールするかが大切です。そして自分の研究のことを出来るだけ分かりやすく説明すること、なぜその分野を選んだのか、その研究で



どんな応用ができるのか、そしてそれがどの程度難しいことなのかを面接官にきちんと伝えられれば大丈夫です。

—— 留学生の面接をする際、企業は「何年間日本で働くか」、という質問を必ずしてくると思いますが、どのように答えましたか。

リー 私の場合は日本で働きたいから、少なくとも10年はやりたいと答えました。

曹 私は中国に進出している企業を希望しましたから、日本で何年か経験して、現地の支社などに行きたいと正直に話しました。

マイケル 僕の場合はどこで、という希望はありませんが、配属された場所で少なくとも4～5年は、その地のお客様に対してコミットメントを持って働くべきだと会社からも言われていますし、自分も2～3年で変わるのはあまり好ましくないと思っていますから、日本で働くのなら少なくとも5年は日本にいたいと言いました。

—— みなさんはしっかりした意思をお持ちでとても心強いですね。日本語と日本で学んだ知識を生かして、グローバルな活躍をしていただけることを期待しています。

おたより

小木曾 友 様

数日来、今冬一番の寒気が訪れ、朝夕の冷え込みが身に應えるこの頃でございます。

先日は、嘉悦大学の公開講座で、小木曾先生のお話を伺うことが出来まして、本当にうれしゅうございました。改めて、アジア学生文化協会の歴史や、穂積五一先生の思想などを伺わせていただき、感動致しました。

「アジア共同体創生へ・アジアの声を聞こう」の講座の事は、NHKのラジオ放送で知り・早速申し込み受講させていただきました。

日頃は一人で受講しておりますが、先回は小木曾先生の講義でしたので、夫と共に伺わせていただきました。

小木曾先生のお話の中で、穂積先生の「三つの心得」を伺い、改めて振り返って見ました。

「ゴミを拾いなさい」

私共が子供のころ、親や先生から「自分が落としたゴミでなくても、気が付いたらすぐに拾いなさい」と、よく言われたことを思い出しました。

「留学生に学びなさい」

アジアの留学生からまず教えられたことは、彼らの礼儀正しさでした。

また、国や言葉は違っても、心は通じ合えるということも学びました。いまだに、若い彼達から多くの事を学ばせて頂いております。

「日本人の価値観を先ず捨てなさい」

留学生やそのご家族とのお付き合いを通して、それぞれの国には様々な宗教、文化、習慣、考え方のあることを実感しました。その違いを知り、理解し合って行かなければいけないと、何度も体験させられました。

日本人同士でも、つい自分の狭い価値観で相手を判断しがちですが、心しなければいけないと思います。

又、受講者からの質問に対して小木曾先生が「数人の考え、行動、発言で、その国を判断してはいけない。それは、A国のBさんの意見であって、A国を代表するものではない」と答えられたことは本当にその通りだと思います。広い視野に立って、物事を判断できるようになりたいと思います。

毎回、アジアに対する熱い思いを先生方から伺いながら、「アジア共同体」の理想に共

感じながらも、実現には道が険しいことも感じました。

でも、理想に向かって努力をされていらっしゃる方々が数多くいらっしゃることを知り、頭が下がる思いがしております。

国と国が理解しあって親しくなるには、人と人との交流が大切だということをいつも感じております。

特に若い人たちが他国でいろいろなことを学び、その国の良い点も悪い点も知った上で、その国の良き理解者になれば良いと思います。

穂積先生の高邁な創立の精神を引き継いで、小木曾先生はじめ、アジア学生文化協会の皆様方が、本当に大切なお仕事をされていることに、心から尊敬の思いを抱いております。

私の人生にとりまして、アジア学生文化協会を通して、真面目で心の純粋な、アジアの若者たちと交流する貴重な機会を与えて頂き、どんなに有意義で幸せなことだったかと、心から感謝をいたしております。

最近ではホームビジットと、春・秋の日本語体験教室のお手伝いしかできませんが、ABKの学生数も増え、時代の変化と共に日本人との交流を学生自身があまり望まなくなったとも伺いました。

長い年月が過ぎた現在でも、機会あるごとに連絡を下さる方、消息が途切れた方と様々ですが、交流をして来た留学生の事を振り返り、懐かしい思い出をたどりながら、別紙に書いて見ました。

消息の途切れた人たちも、各地で元気に活躍していらっしゃることでしょう。そして、時々あの頃を思い出して、日本への良き理解者であってくれることを信じています。

今も連絡を下さる方々には、心を和まされ、励まされ、本当に有難うという気持ちでいっぱいです。

長い文章で申し訳ございませんが、お時間があります時に、留学生のその後の様子など、目を通していただければ嬉しく存じます。

寒さの中にも暖かい春が日毎に近づいていることでしょう。

小木曾先生のご健康と、アジア文化協会の益々のご発展を心からお祈りしております。

かしこ

平成24年1月26日

竹田 和子

『保証人やホームステイをした留学生とその消息』

竹田和子様

李健霖君（マレーシア）1985～・筑波大学

ABKの留学生として初めて出会った方です。現在はタイのホンダに勤務しております。アセアン諸国に出張する度に、ベトナム、ミャンマーなど、各国の風景や、人々の生活、政治情勢まで、写真を交えた楽しい便りをメールで送ってくれます。昨年末のタイの洪水では、刻々と水が迫ってくる様子を知らせて来ました。文末に「何があっても立ち向かうしかないですね」と書かれていて、彼のたくましさを感じました。年末から新年にかけては、家族そろって台湾で休暇を過ごすご連絡がありました。数年前ですが、奥様と二人の息子さん（卓超君・卓絶君）を連れて遊びにも来てくれました。一年後には、上の子が留学予定だそうです。

陳良順君（マレーシア）1985～・横浜国立大学

鄭建忠君（マレーシア）1986～・立命館大学

李寶龍君（マレーシア）1986～・広島大学

林発光君（マレーシア）1987～・東京農工大学・修士

王玉林君（マレーシア）1987～・静岡大学

鎌倉で観光バスに乗り、大仏様などを見学しました。

孔慶傑君（マレーシア）1988～・早稲田大学

大学在学中は「一生の仕事ではないのだから」と、ごみの収集のアルバイトまでして頑張っていました。結婚をして、お子様方と良い家庭を築き、シンガポールで事業をされているようです。毎年、年賀状をくださいます。

1993年4月4日に「明日帰国する」と挨拶に見えました。帰り際に、涙を流していたことが忘れられません。

鄧錦雲君（マレーシア）1988～・早稲田大学

中国の女性と結婚して、かわいい赤ちゃんが生まれ、幸せそうな写真が送られてきました。

江先錫君（マレーシア）1988～・早稲田大学

美しい彼女を紹介してくれ、結婚式にも招待して頂きましたが、出席できませんでした。孔君、鄧君と一緒に、博物館に行ったり、我が家でマレーシア風カレーを作ってくれたことなどが懐かしく思い出されます。早稲田大学の卒業式には、夫と出席させていただきました。

鄭克明君（マレーシア）1989～・筑波大学・大学院

梁美婷さん（マレーシア）・茨城大学

克明は数年前から昨年まで、中国系の会社の日本支社に勤務していましたが、奥様が二人目の子を出産する直前に東日本大震災が起き、マレーシアのご家族の強い意向で会社を辞め、マレーシアに帰国して、現在はシンガポールで働いています。克明は筑波大学にいましたので、同学の我が家の息子たちとも親しくしていました。大学4年の春休みに、是非、私にマレーシアを見せたいと、夫を説得して連れて行ってくれました。初めて見るマレーシアの景色や風俗にも目を見張りましたが、大家族の一人一人の優しさ、心の温かさ感動しました。ABKへ留学直前の美婷さんには、その時に初めて会いました。二人はも



父(当時88歳)、私、李健霖君、陳良順君(共にマレーシア)。ホームステイの折に。茨城の家で



孔慶傑君、鄧錦雲君、江先錫君(共にマレーシア)。我家でマレーシア料理を作ってくれました

ともと遠縁にあたる関係でした。堅実で、しっかり者の美婷さんを見ていて、鄭克明のお嫁さんにお似合いではないかと思っていましたら、いつの間にか願ひどおりになり、卒業後しばらくして結婚し、宇翔・ウーシャン(男児・四歳)と、女兒(7か月)と共に、幸せな家庭を築いております。御兄姉が茨城の山の家まで遊びに来たり、茨城大学の卒業式には、美婷さんのお母様が私宅に泊まり、新宿御苑などをご案内しました。小木曾先生もご存じの通り、私も二人の結婚式に出席して、新郎新婦、新婦のお母様、お兄さん、お姉さん、弟さん、私の総勢7人で、キャメロンハイランド、クアラランプール、マラッカなど楽しい旅をさせていただきました。自分の息子や娘のように思える人たちです。

范寶權君(マレーシア) 1989～・東京水産大学

マレーシアに、冷凍技術を広めたいと云って水産大学に進みましたが、今はどうしているでしょうか。

孫梓棋君(東マレーシア) 1989～・大阪大学
卒業の際には、東マレーシアのサラワクから

お母様、伯父、叔母様たちが来日して、総勢7人が私の家に泊まり、東京観光をして帰りました。信州大学に通っていたお兄さん共々、度々、私の家を宿にしていました。

張紅萱さん(台湾) 1991～・高崎経済大学

在日中にお母様とお兄様を亡くされましたが、たくましくご自分の道を歩んでいます。現在は台湾の新竹で日系の企業に勤めています。数年前に、優しいご主人と一緒に、可愛い赤ちゃんを連れて遊びに来てくれました。子供の台湾名は家穎(ジャイン)と云いますが、日本名を考えてほしいというので、幾つか名前を書いて送りました。其の中から翔太(しょうた)とつけたそうです。仕事と子育てに忙しい中で、東日本大震災のお見舞いや、私共の健康のことなど、常に気を使って電話を掛けてくださり、翔太君も「おばあちゃん!」と、日本語で呼びかけてくれます。

沈玉蕊さん(マレーシア) 1991～・明治大学

在日中はお友達や兄弟を連れてたびたび我が家に遊びに来ていました。張紅萱さんと筑波山登山、筑波大見学、茨城の山の家でバーベキューなど、楽しみました。浴衣を着て喜ん



金鐘杰君、黄徳盛君（共に韓国）、私、夫、王宏剛君（中国）。我が家に遊びに来てくれた折に

でいたことなどが目に浮かびます。帰国後も来日するたびにお会いしました。明治大学の卒業式にも出席いたしました。

金大煥君（韓国）1991～・関東学院大学

苦しかったり、楽しかったりした、軍隊での体験談をよく聞かせてくれました。現在は、韓国で家庭を持ち、日本に関係のある会社に務めています。私共が韓国に旅行をした折に、元気な彼と奥様に再会しました。

李青雨君（韓国）1991～・韓国の大邱大学

「日本の若者は、電車の中で老人が前に立っているのもなぜ席を譲らないのか」と質問された事が印象に残っています。帰国してから、韓国の友人達を連れて何度か我が家に遊びに来ました。次男の車で笠間美術館や筑波大学の見学にも行きました。私共が韓国旅行をした際には、友達と奥様と共に会いに来てくれました。次男も大煥君・青雨君と一緒に韓国旅行を楽しんだことがあります。

金会柱君（韓国）1992～・明治大学

文財君と一緒に茨城の山の家でホームステイをしました。朝早く、軍隊の行進歌を歌いながら山に登った思い出があります。



梁美婷さんのお母様と美婷さん（マレーシア）、夫。美婷さんが茨城大学を卒業した折にお母様が来日。我が家で

劉文財君（マレーシア）1992～・台湾の大学卒

バーベキューをした時、焼肉屋でアルバイトをしていた文財君が、手際よく調理してくれたことを思い出します。シンガポールで事業をされているそうです。

鄭佳鉛君（マレーシア）1992～・福島大学

梁国峰君（マレーシア）1992～・高崎経済大学

ホームステイを引き受けた方が急に都合が悪くなり、この年は二組のホームステイを致しました。高尾山に登ったことが思い出されます。

林メヤンさん（マレーシア）1993～・静岡県立大学

日本人と結婚して、かわいい男の子が生まれ川崎に住んでいます。毎年、年賀状をくださいます。

陳菊妹さん（マレーシア）1993～・富山大学

周俊益君（マレーシア）1994～・東北大学

東京工業大学にも合格しましたが、地方の大学に行きたいと東北大を選びました。家庭を持ち赤ちゃんの写真を送ってくれました。



金大煥君（韓国）、私、李青雨君（韓国）。帰国後、李青雨君が再び遊びに来た折に。笠間稲荷で



金知仁さん（韓国）、私、金徳鉉君（韓国）。ABK日本語コースの卒業式の折に

ウイラーワンさん（タイ）1994～・帰国

タイで結婚して赤ちゃんも生まれ、幸せそうな写真を送ってくれました。帰国後一度遊びに来ました。

林佑鍵君（マレーシア）1995～・信州大学

数年前、来日した折に会いましたが、お父様の石油関係の事業を引き継ぎ、活躍しているようです。卒業時にご両親が一泊されました。

張蒼龍君（マレーシア）1995～・亜細亜大学

しばらく林君と一緒に事業をしていましたが今は分かりません。卒業時にお父様とお兄様が来宅されました。

趙剛君（中国）1996～・東京工業大学

中国のお友達を大勢連れて遊びに来たりしました。今は、上海でグルメ関係のインターネットの仕事をしているそうです。

王宏剛君（中国）1997～・東京工業大学

大学卒業後、先日までソニーに務めておりましたが、今回の大震災で、中国のご両親が心配のあまり体調をこわされたそうです。又、夫人の勤務地が上海の為に、昨年末に会社を辞めて上海に戻りました。中国のソニーに勤めるそうです。ご両親が、瀋陽から来日され

た時には我が家を訪ねてくださいました。

黄喜辰さん（韓国）1998～・明治大学

張慧英さん（台湾）1999～・弘前大学

大学が遠方でしたので、その後、交流はありませんでした。

謝枚樺さん（台湾）1999～

丁珖錫君（韓国）2000～・帰国

呉範錫君（韓国）2000～・日本大学・大学院
韓国で大学の先生であると同時に、建設関係の事業もされているようです。仁川の支庁前に建設したビルの写真を送ってくれました。奥様と可愛い二人のお子様の写真を添えて、年賀状を送って下さいます。

南政佑君（韓国）2000～・日本大学・大学院

お母様と女優のお姉様にお会いしたことがあります。韓国で大学の先生をしているようです。

黄徳盛君（韓国）2001～・流通経済大学

韓国の忠州で観光の仕事をしています。日本への出張の合間に訪ねて来てくれたことがありました。

金鐘杰君（韓国）2001～・東洋大学

大学の生活に馴染めず心配しましたが、その



沈玉蕊さん（マレーシア）、私。明治大学の卒業式の折に

後のことはわかりません。

金知仁（韓国）2002～・早稲田大学・大学院
一生懸命に頑張って大学院まで卒業し、一昨年帰国しました。昨年はお母様の健康問題があり、就職活動が出来なかったようですが、今春から放送大学の先生になるそうです。お母様の手作りのキムチやコチジャンを送って下さったり、日本の海の放射能汚染を心配して、韓国南端のきれいな海の天日塩を送って下さいました。私共の健康にも気を配って下さり感謝しています。お母様や叔母様、お兄様夫妻も私宅にいらっしゃったことがあります。

金徳鉉君（韓国）2003～・帰国

金東一君（韓国）2003～・武蔵野美術大学
美大の下見にいっしょに行きました。卒業制作の品（香水入れ）を記念にくださいました。帰国してすぐ入隊し、除隊後は更に美術の勉強を続けたいと云っていましたが、どうしたのでしょうか。

張軫奎君（韓国）2004～

洪性薰君（韓国）1994～・立命館大学
日本語コースの学生で、偶然に知り合い、私

ウイラーワンさん（タイ）、私。
浴衣が似合います



の家にも、他の留学生と共に度々来ておりました。日本人の女性と結婚して、女の子が生まれ、現在は大阪で日韓語学学院や韓国の品物をお店を開いています。韓国での結婚式には、私も招待されて出席させていただきました。お母様も私の家に泊まり、箱根旅行に御案内しました。

金郁鎮君（韓国）1996～・関東学院大・明治大学大学院

前記の金大煥君の従兄で、保証人を頼まれ、現在は東京で建築関係の会社に勤めています。お母様が来宅したことがあります。

<ホームビジット>

施佳さん（中国）2006～

霍嘉琪さん（中国）2006～

高島屋の留学生として、デザインの勉強に来たそうです。

林紹程君（マレーシア）2009～

劉齡遠さん（台湾）2009～

ムハマド・ハイカル・ビン・ムハマド・ザイニ君（マレーシア）2010～

敬虔なイスラム教の方で、我が家にいる間にも、身を清めて二回ほど別室で、メッカに向かい祈りを捧げていました。

簡浚祐君（台湾）2010～・筑波大学大学院

筑波大学の大学院で臨床心理学の勉強をしたという希望でしたので、夏休み中に筑波大の見学に行きました。大学院の試験はすでに終わっていましたので、2011年4月から研究生になり、2012年の4月からは大学院に入学することが決まりました。台湾に帰国後は、障害者の教育に役立ちたいそうです。

尹勝一君（韓国）2011～

車のデザインの勉強を希望。

柳孝権君（韓国）2011～

スポーツに関する勉強を希望。

手元にある記録をもとに改めて書いて見て、自分でも信じられないほど、多くの留学生が我が家を訪ねて来てくれたことにおどろいています。

留学生専用の来客名簿には、更にこの方たちが連れて来た、友人、知人、後輩などの、住所、氏名、私達への一言、写真などが残されています。その数は、台湾3名、韓国21名、中国11名、マレーシア36名、インドネシア1名にもなりました。

お正月、卒業祝い、その他の集まりに、10名～20名でテーブルを囲むこともしばしばありました。お料理は殆ど手作りにして、日本の家庭の味を出すように心がけました。

茨城の山の中にある小さな家も良く利用して、バーベキューや山登りなどを楽しみましたが、そこには留学生が記念に植えた、木槿むくげが夏には美しい花を咲かせ、秋にはミカンの実が黄色く色づいて、楽しかった日々を懐か



お正月の集まりで。前列・金会柱君（韓国）、私の孫、鄭克明君（マレーシア）、沈玉蕊さん（マレーシア）、私の孫、私、娘、（後列）金大煥君（韓国）、友人、陳菊妹さん（マレーシア）、メヤンさん（マレーシア）、友人、夫

しく思い起こさせてくれます。

故郷や家族から離れて日本に来た若い人たちが、ひと時でも羽を休めるひと枝になりたいと願いつつ続けて参りました。

夫や娘・息子たち家族全員が、いつも温かく理解し、協力してくれたので、今まで続けられたのだと感謝しております。

一方で、私の家族にとりましても、留学生との交流は、多くの事を学ばせて頂く良い機会になりました。

一人一人の留学生たちが、やがては自分の国と日本の懸け橋になって下さることを心から願っております。

本当に有難うございました。

※ アジア学生文化協会理事長・小木曾友宛に届いたお手紙を、ご本人のご承諾を得て編集・掲載させていただきました。



国際言語文化センター附属日本語学校

理事長 金城デリアさん 事務局 大城智子さん

青い海に白い砂、日本屈指のリゾート地である沖縄は、都会の息苦しさの中で暮らす人にはあこがれの地。年間約2000人が内地から沖縄に移住すると言われています。そんな沖縄にも複数の日本語学校が存在し、日々日本語を学ぶ留学生たちがいます。彼らは、日本人同様そのリゾート感覚に憧れて沖縄の地を踏んだのか。また、沖縄の日本語学校の現状は？ 那覇市で古くから日本語教育を行う国際言語文化センター附属日本語学校にお邪魔して、同校の金城先生と大城先生、そして在校生お三人にお話をうかがいました。

沖縄で学ぶ日本語学校生

—— 生徒さんが沖縄の日本語学校を選ばれた理由があれば教えてください。

金城 現地のエージェントに紹介されて、というケースのほかには、親戚や友達が既に沖縄にいるからといった人が多いですね。

大城 他には自分の住んでいる地域に雰囲気や気候が近いからと言う声や、急に大都会の東京に行くと不慣れだから、それより沖縄でゆっくり日本語を勉強して、進学時に東京に行きたいという声も聞きます。

—— 生徒さんの主な出身地域を教えてください。

金城 今のところは中国が最も多いのですが、ここ最近だいぶ減ってきています。2012年度からはさらに中国の学生は減ると思います。

大城 中国以外では、ベトナムやインドネシアからの学生が多いですね。

—— 沖縄の日本語学校には韓国や、すぐ

そばの台湾の学生はあまり多くないようです。

金城 当校にも現在台湾や韓国の学生はいませんが、20年前、台湾の学生は断るほど大勢いたんです。台湾の経済発展とともに沖縄を飛び越えて東京に行ってしまうようになりました。

大城 今の台湾の学生にとって、沖縄は近すぎるようです。そのため台湾からの旅行客は多いのですが、わざわざ住んで勉強する場所ではない、というのが留学生の気持ちのようです。ですから、今は親戚や友達がいるという理由以外で、沖縄で日本語を学ぼうという台湾人学生は少ないですね。

—— では学校のセールスポイントを教えてください。

金城 少人数とは言えませんが、大きな学校ではないので、先生方やスタッフと学生とのコミュニケーションは良くとれています。私は沖縄出身ではありませんが、スタッフは全て沖縄出身者で、沖縄のこと、その良さをよ

く理解しています。そして何より一生懸命日本語を教えています。それに、親切に一人一人の生徒を扱っていますから、ここに来たら問題なく1年、1年半を過ごせると思いますね。日本語だけではなく、文化や日本でのマナーなど、様々な面での指導も行っていますし、授業について行くのが難しい生徒がいたら、先生方は自分の時間を削ってでも補講をしますから、落ちこぼれてしまう生徒はめったに出ないんです。

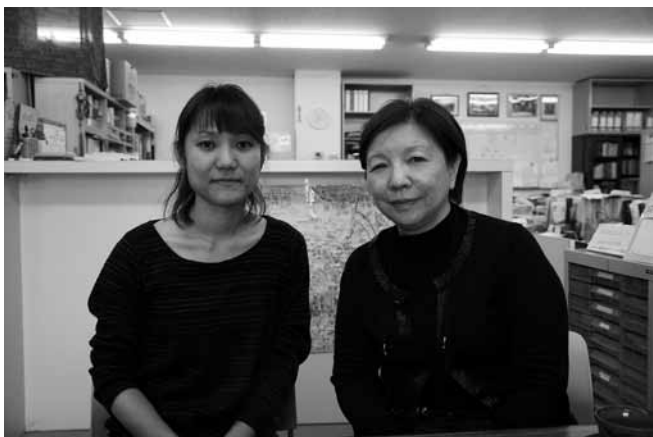
—— 沖縄の物価についてはいかがでしょうか。

大城 一般的な食材費などについては東京と大差ないようですが、家賃は安いので、学生がアルバイトをしながら生活するのは難しくありません。それに部屋も広く、ほとんどの学生が2～3人で一部屋を借りて生活していますから、家賃の負担はかなり少ないと思います。学校でもアパートのいくつかの部屋を借りあげて寮として利用していますが、2Kほどの部屋に4人で共同生活をしています。

進学先は内地か沖縄か

—— 生徒さんはみなさん進学を希望しているのでしょうか。

金城 大学院を志望する人も毎年1人～2人はいますが、ほとんどが母国で高校や専門学校を卒業して来日し、大学学部を目指すという人たちです。



大城さん

金城さん

—— 進学先は沖縄県内が多いのでしょうか。

大城 3年前までは東京志望が多くて、半数以上は東京に行っていたのですが、最近は沖縄に止まる学生も増えています。2/3くらいは沖縄に残っているのではないのでしょうか。

金城 学校やアルバイトの選択肢が多いこともあり東京に行くわけですが、実際には沖縄に残って勉強を続けたいという人は多いんですね。

—— 内地に進学する場合、九州や大阪よりも東京の人気の高いのでしょうか。

金城 そうですね。大阪はゼロではないのですが、毎年いるわけではありません。九州は恋人や親戚がいるといった場合でない限りはいませんね。

大城 学生には日本に行くなら“東京”というイメージがあるようで、来日して数か月後の面談では、ほとんどの生徒が東京に進学したいと言います。ただ、沖縄に住んでみると過ごしやすいということと、アルバイトなどをしていれば進学後も同じところで続けられるということで、沖縄に残るという進路変更

をする学生も多いんです。もっとも、沖縄を選んだ場合でも、いつか一度は東京に住んでみたいという思いはあるようです。

—— みなさん希望通りの進学が出来ているのでしょうか。

大城 上位の有名大学になると失敗することもあるのですが、だいたい自分の成績に見合ったレベルの学校を受けていますから、第3希望までの中では受かっています。

金城 先生方は進路指導を熱心に行っていますね。最初に6月頃、それ以降何回も面談を行って学生の希望と進学先のマッチングを行っています。学生は6月の時点で進路の希望を出しますが、その後徐々に気持ちに変化していくケースもあるわけで、先生方はそのあたりを注視しながら対応してくれています。

—— 沖縄で進路指導を行うことで難しいと感じることはありますか。

大城 進路指導上の難点とは少し異なりますが、まず受験のために、大学のある東京に行かないといけませんし、中には願書提出のためだけに上京しないといけない大学もあり、これは学生にとってかなりの負担になっています。沖縄で試験を開催している内地の大学もありますが、まだまだ少数で、そういった点に関しては、沖縄のハンデを感じます。

金城 受験で内地に行ったときは、ほとんどの学生が友達の家泊めてもらったりしているようですが、航空券はどうしても買わないといけませんからね。

震災・円高と生徒数の変化

—— 課題や問題点などはどのようなこと

でしょう。

金城 沖縄に来てみると、実際に想像していた日本と違うと感じる学生もいるようです。中国の学生から聞くと、日本の生活は自分の国より遥かに上だと思っていたのに、実際はそうでもない。たしかに平均していい生活はしているけれど、思ったほどではないと。ある卒業生は、那覇国際空港に着いた時に、自分はいったいどここの空港に着いたんだろうと考えたそうです。どこか中国の田舎の空港に着いたのではないかと思ったそうです。「日本は一流のテクノロジーの国」というイメージがありますから、空港もハイテクの結晶なのではないかという過大な期待を持って来日する学生は未だにいるわけですね。運良く那覇国際空港は新しいものが出来るそうなので、少しは学生の期待に沿えられるようになるかなと思うのですが。

大城 今後の大きな課題は学生をどのように募集して行くかということになると思います。

—— 学生募集に関して、円高や震災の影響はあったのでしょうか。

金城 両方とも影響はあったと思います。ただそれよりも今の日本は世界の舞台で元気がない。そういうイメージが強いことが、学生が日本に来ない一番大きな原因ではないでしょうか。以前生徒に円高について聞いたとき、中国人はいくら通貨が高くてその国に価値があれば来ますよと言われたんです。今は円高なのに日本にかつての力がない。アンバランスだから学生が来ないのだと思います。中国も、以前と違いインターネットを通じてそういった情報が敏感に伝わりますから、日本に来ようという人が減ってしまっ

いるのだと思います。

大城 震災の影響については、3月に発生した当時は問合せやキャンセルを考えているという連絡がありましたが、沖縄の場所をよく説明したり、既にこちらに住んでいる親戚や友達が沖縄の安全性を説明したりすることで、入学を辞退した人はいませんでした。もちろん親御さんたちは最後まで心配されていたようです。

金城 うちの学校の卒業生で、当時東京で生活をしていた学生たちも、震災直後には一時的に沖縄に避難しに来ていたんです。

大城 ちょっとパニックになった時期がありましたね。春休みで、中国へのチケットはもう取れないからと、沖縄に避難して来たという学生が何人かいました。

—— 沖縄が第二の故郷ということですね。ここ数年の生徒数の変化についてはいかがでしょう。

金城 これは当校や沖縄に限ったことではないと思いますが、当校では1年半ほど前から学生は減り始めました。以前は本当に多くの学生が入学を希望して、面接できずにお断りしないといけないといったこともあったわけですが、それは過去の話ですね。沖縄の日本語学校生が減少した一つの原因に福建省から来る学生の減少があげられます。以前福建省の学生はビザの交付率が悪く、東京の学校では受け入れてもらうのが難しかったため、まず歴史的な関係も深い沖縄に来て日本語を学び、それから本土の大学に進学するという流れが一般的でした。ところが今は福建省の学



校内に入ると、生徒とスタッフの温かい関係が伝わってくる

生でも他の中国の地域と交付率はさほど変わりませんから、黙っていても（福建省から）学生が沖縄に来る時代は終わったということです。ですから、沖縄でも以前から中国以外の地域の学生に焦点を絞って生徒を集めてきた学校は、いま花開いているといった感じですね。

大城 生徒数は今50名ほどですが、2010年の10月頃に半分になり、11年4月にまたその半分になって、という感じで、本当に急激に減ってしまいました。福建省の学生は、「みんながこっちに行くから私も行く」といった感じで固まりで動くようで、みんなが東京に行くとなると、ほとんどの人が東京に行ってしまう。もちろん今は日本経済が落ちてきて、南米やアメリカに学生が流れているということもあります。

金城 中国人は成功したいんですね。一生懸命学んでお金持ちになりたい。だから元気のある国に行きたいと思うのは当然のことですね。

大城 ですから生徒募集については、今、中国以外の国に絞って戦略を練っているところ



李さんと劉さん

です。

—— 具体的にはどのように学生募集を展開したいと考えますか。

金城 他の学校はベトナムに行ったりタイに行ったり、いろいろな所でPR活動をしているようなので、私たちもがんばっているのですが、楽ではないというのが現状です。できればいろいろな国の関係機関とパイプを作り、直接現地に出向いて募集をしたいと考えています。また、これまで行ってこなかった短期プログラムにも力を入れたいと思っています。アメリカなどは1か月、2か月という短期で留学できますし、そのためのビザもありますから、日本はこの点では遅れているわけです。ですから日本語学校も、関係機関にもっとアピールして、短期コースをやっているかないと、経営が難しくなっていくのではないかと感じています。

大城 今まで特別沖縄であることを強調して学生を募集することはなかったのですが、今後は沖縄の特徴や良さをもっとアピールして展開していくことも必要なのではと思って

います。

—— 本日は貴重なお話、ご意見をお聞かせいただき、ありがとうございました。

在校生に聞く！

李承翰さん 劉雲楓さん
(中国・江西省出身)

—— 日本で日本語を学んでみようと思ったのはどうしてで

すか。

劉 子供の時から日本の文化に興味があったということと、仲の良かった友達が琉球大学に留学していますから、私も同じ琉球大学に進学したいと思い、沖縄の日本語学校に来ました。日本文化は食文化や伝統芸能、武道などの古いものが好きですね。

李 私は最初、オーストラリアに留学したいと思っていましたが、母の友達が沖縄に住んでいて安心だからということで、沖縄に来たんです。それに、私は車が好きなのですが、日本は世界中で自動車産業が一番盛んな国ですから、日本で自動車のことを学んでみたいと思いました。

—— 沖縄の生活はどうか？

劉 沖縄はあまり人が多くありませんから、のどかで環境はいいですね。自分の故郷と雰囲気似ていて落ち着けますし、今はここが大好きです。

李 沖縄は小さくて自転車どこにでも行けるところが気に入っています。夏休み、私は自転車で南沖縄を一周しましたが、今度の冬

休みは北を一周したいと思っています。

劉 それから、初めて日本に留学する学生は沖縄に来たら生活の問題が少ないと思います。来日したばかりの留学生は日本語があまり上手くありませんから、最初から東京に行ってしまうとアルバイトを探すのも難しい。交通も複雑ですし、家賃も高いので生活の問題が出ると思います。沖縄の留学生は少ないですが、お互いに情報を共有できますし、アルバイトもすぐ見つかるので、不安なく留学生活に入って行けると思います。

——— これからの予定を教えてください。

劉 私は予定通り琉球大学を受験します。

李 私はたぶん琉球大学の科目等履修生になって日本語の勉強を続ける予定です。将来は東京の自動車専門学校に行きたいと考えています。

——— 今日まで、この学校で学んでみていかがですか。

劉 楽しかったですね。先生達の教え方は上手ですし、文化の違ういろいろな国の友達と話ができるのも楽しかった。

李 私も同じ意見です。あとは先生達がとて

も優しく親切にしてくれる。授業では日本語のこと以外にも、日本や世界のいろいろな話をしてくれて、とても楽しかったです。

——— ぜひ日本留学で夢をかなえて下さい。ありがとうございました。

 12月中旬、東京ではすでに厚手のコートが手放せないというのに、那覇は半袖でも問題ない暖かさ。この温暖な気候は南国出身者が多いアジアの留学生にはとてもありがたいものだろう。美しい大自然に活気ある市場… 母国に近い雰囲気がありながら、お馴染の大手スーパーや家電量販店などが数多く出店し、しっかり日本の生活を楽しめる。なるほど、住んでみて進路を東京から沖縄県内に変更する学生が多いというお話も頷ける。そんな沖縄も、海外での知名度は今一つとのことで、つまりは沖縄ブランドの発信による宣伝・開拓の余地はまだ残されているということだ。留学生数の減少が懸念される昨今ではあるものの、沖縄の日本語学校にはまだ未知の可能性が秘められていると言えそうです。

沖縄で学ぶ！

国際言語文化センター附属日本語学校
Japanese Language Institute, ICLC.

沖縄県那覇市田原 1-4-1 サンヒルズ田原 2F

TEL: 098-859-3881 FAX: 098-859-3889

E-mail: info@iclcjapan.com

ホームページ <http://www.iclcjapan.com/>



<学校沿革> 1983年8月那覇市奥武山に語学専門機関「国際言語

文化センター」として業務開始。フィリピン・ペルー・アルゼンチン・ボリビア・アメリカ等、多国籍の学生が在籍しスタートした。1986年5月株式会社として法人化する（設立日：5月16日）。1990年4月沖縄で初めて、本格的な日本語教師養成講座を開始。1991年7月（財）日本語教育振興協会より、日本語学校として認可を受ける。インドネシア・中国・台湾・南米等の学生が在籍。1996年8月那覇市田原に移転。現在に至る。

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2011年12月

賛助会員

(1口)

佃 吉一 板橋区

正会員

(1口)

広江 重徳 浅口郡

早乙女 和義／博子 品川区

重野 幸子 臼杵市

奥山 節子 西村山郡

HENG FU CHONG ドイツ

高木 桂子 墨田区

二村 美朝子 練馬区

佐藤 順子 浜松市

安藤 哲生 小金井市

石渡 荘介 足立区

代田 泰彦／ますよ 所沢市

香月 恵美子 川西市

久保 亨 文京区

林 登居／ひさ子 八千代市

北林 保之 中川郡

萩原 伊助 千葉市

工藤 幹雄 文京区

高柳 直正 北区

小川 輝夫 上尾市

池田 俊二 横浜市

大杉 立 つくば市

木下 幹康／澄江 狛江市

石川 毅／優子 北区

福 壤二 横須賀市

甲斐 等 府中市

高橋 雄造 杉並区

田中 洋一 柏市

辻 昌徳 国分寺市

鶴尾 能子

名越 修

武智 康子

天野 高明

池野 朋彦／晶子

福本 一

井上 駿

堀 香奈美

三上 英満

富永 昭太郎

菊池 幸子

小川 巖

川口 善行

樋川 好美

古川 恵世

横浜市

三浦郡

練馬区

白井市

横浜市

船橋市

平塚市

横浜市

世田谷区

町田市

笠間市

入間市

大田区

文京区

我孫子市

ご寄付

太田 三郎／京子 神戸市

斎木 史 足立区

東京第一友の会公共係 豊島区

2012年1月

特別会員

張 瑞騰 台湾

正会員

(3口)

工藤 正司 市川市

(1口)

牧野 政子 宝飯郡

斎藤 伸子 豊橋市

堤 祐子 江東区

菅谷 真人 千葉市

鈴木 順子 須賀川市

野村 美知子 佐倉市

渡辺 穰二 越谷市

寺門 克郎 習志野市

伊藤 源之 東久留米市

外山 経子 八王子市

永田 隆彦／恭一

清水 国夫

西田 祥子

横見 美昭

伊藤 順

田中 千佳子

大益 牧雄

H. DESBOIS

中原 和夫

曾根 文子

田中 武雄／多美子

(株) デリール

田守 智恵子

中畠 正喜

小原 正敏

佐々木 孝一

近山 武子

小笠原 靖子

田井 亮吉

(社) 東京都専修学校各種学校

協会

水戸アカデミー

増井 潤一郎

川内市

中郡

安城市西

文京区

安曇野市

江東区

京丹後市

フランス

那覇市

杉並区

我孫子市

文京区

札幌市

川崎市

土浦市

文京区

横浜市

相模原市

神戸市

渋谷区

水戸市

中野区

ご寄付

栗原 静子 気仙沼市

伊藤 順 安曇野市

中原 和夫 那覇市

伊藤 郁子 練馬区

永山 保 和光市

今年は去年のマイナス
を埋めるような佳い年
になって欲しいです。

2012/1/4 栗原静子



ABK同窓生募金 (2012年1月31日現在)



ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページ
 < <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmeiroku.html> >で随時ご報告させていただきます。

●目標額：5,000万円

●募金額：30,624,278円

●寄付者数：544件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC順。日本のみ五十音順

〈ブラジル〉 Hashiguchi Mariuza、Matsubayashi Marcia、TACHIBANA ALBERTO、Tomooka Tizuko

〈中国〉 Li Chen Xi 李晨曦、尚捷、張勇

〈ドイツ〉

〈日本〉 アジアの新しい風、新井敬二・由利、安藤哲生、池田俊二、伊佐玲子、石川毅・優子、井出遊、伊藤郁子、伊藤順、伊藤源之、犬塚雄大、岩井秀明、岩崎幸子、内山敦之、宇戸清治、大木直美、大西一郎、岡島昭治岡崎道子、小川巖、小川輝夫、小木曾友、小木曾建、小田中聡樹、甲斐等、兼重節、兼重智雄、兼重道雄、川崎依邦 (OCE)、工藤幹雄、黒羽宏、熊沢敏一、小林浩、小宮信介、斉藤雅史、榊正義・正子、坂巻彩乃、清水国夫、清水勇治・泰代、白石勝己、白鳥文子、杉浦貴和子、杉山兼一、鈴木順子、總寧寺、染谷公久、染谷誠、高橋作太郎、高橋満、高橋雄造、高橋幸枝、宅間董、田尻英三、田中紳一郎、田中多美子、田中千佳子、田中雅幸、近山武子、佃吉一 (2)、堤祐子、寺門克郎、寺沢宏次、東京華僑総会、富岡昭二郎、中曽根信、中畠正喜、中原和夫、中野正明、中村洋一、西田祥子、野田 (小金丸) 春美、野村美知子、布施知子、穂積亮次、牧美保子、町田恵子、町田航、松崎松平、松平吉世、水須善行、三溝弘悦、宮野尾光正、村田忠禧、森下明子、山下靖典、山本出、山本章治、山本斉、横沢喜久子、吉川英一、50周年委員会売上 (2)

〈韓国〉 西原景哲

〈マレーシア〉 2011年11月12日留日学生同窓会パーティー一同、Adelyn Ngo、Amy Tan (陈春莲)、Ang Gi Moh (洪以谋)、Ang Khoon Chye (汪坤才)、Ang Sheng Feng (洪巧芬)、APPLE VACATION & CONVENTIONS SDN BHD (苹果旅游有限公司; Koh Yock Heng (許育興))、Chan Huan Pang (曾煥邦)、Chang Chew Chin (張昭成)、Chia Hong Hyiap (謝鴻業)、Chin Saw Kiun 陳少勤、Chong Piang Wee (張炳輝)、Chong Teek Foh・Chow Soo Lin、Choo Yun Fah、CM Aung、Fong Cheong Thiam (洪昌添)、Foo Hee Hiang (符氣強)、Gan Seu Kian (顏綉涓)、Gan Teck Yeow (顏得耀)、Goh Swee See (吳瑞獅)、嚴世清、Ham Poh Chyan、Heng Fu Chong、Jeff Tiang、

Khu Hwa Leng (邱華龍)、Kong Guan Wie (江元偉)、Lai Yoon Poh (賴永保)、Lau Kok Yong (劉國榮)・Lau Weng Wah (劉潤華)、Lau Sau Hong、Lau Shiang Horng、Lee Leong King (黎亮景)、Lee Mow Tiam (李茂添)、Lee Tiam Hing (李天興)、Lee Yuet Keong (呂月強)・Kek Sai Fong (郭思坊)、Leong Thiat Eng (梁德榮)、Lew Kim Song (劉金雄)、Lim Chong Chan (林忠贊)、Lim Liong Chu (林良住)、Lim Yok Chai (林意財)、Low Cho Kee (劉助基)、Low Han Peng (劉漢平)、Ng Chin Keong (黃振強)、Ng Chuan Aik (Tony Cang)、Ng Eng Hooi (黃永輝) Ng Kim Chai (黃金財)、Ng Kim Chai (黃金財)、Ng Teong Guan (黃忠元)、Ng Thian Eng (黃殿英)、Ngwan Boon Ming (阮文明)、Ong Ching Long (王建龍)、Ong Poh Heng (王寶慶)、Ong Thye Beng (王泰明)、Ong Yee Meng (王玉明)、Sim Eng Kang (沈永江)、Soh Keh Woei (蘇克偉)、Stanley Lian Tan Boon Liang (陳文亮)、Tan Chaik Kwang (陳澤光)、Tan Chee Kiong (陳志強)、Tan Chee Teong (陳治中)、Tan Cheet Yong、Tan Chew Mooi (陳秋妹)、Tan Kee Hang (陳繼漢)、Tan Pang Tee (陳邦智)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tang Kok Lian (湯國亮)、Tang Kok Lian (湯國亮)、Tang Miow Chin (湯妙晶)、Teoh Eng Choo、Teh Chong Yee (鄭忠義)、Teo Bee Hong (張美宏)、Teo Chuan Soon (張川順)、Teo Tiam Hwa (張添華)、Thye Meng Yu (鄭茗友)、Toh Peng (杜平)、Wong Chin Shiuan (黃晉軒)、Wong Jiunn Shyong、Wong Kuok Hung (黃國鳳)、Wong Seng Keng (黃成耕)、Wong Sheong Chin (黃錄進)、
 ヨン・チンチュウ

〈シンガポール〉 Foo Yong Tse

〈台湾〉 陳俊銘、林登居

〈タイ〉 ガームポー・パットラウット

以上、186 件

2011 年 11 月 30 日以前の寄付者 (358 件)

〈バングラデシュ〉 A.K.M. Moazzem Hussain、橋本イスラム・ヌルール (在日)

〈ブラジル〉 Alice Nakamori、セキヤ タチバナ、フランシスコ ヒロノリ イシハラ、ヤマウチ アツシ、ヤマウチ カズコ、ミズマ アイコ タチバナ

〈カナダ〉 張素華 (香港)

〈中国〉 蔡堅平、陳洪真、Chen Xian (陳獻)、戴志堅 (在日)、高榮、可軍 (広中軍二)、賈輔忠、賈蕙萱、金東翰、金秋、郭南燕、李春利、李惠春、劉明華、劉映春、劉越 (在日)、呂新一、孟令樺・計宇生 (在日)、Meng Xiao Xiao、宮下偉路 (趙偉路; 在米)、倪玉、Ou Yang Fei 歐陽菲 (在日)、朴順玉、全浩、沙蓮香、孫前进、王巍、Wang Wen 王穩、魏慶鼎、楊一帆、張航、張新、張新旺、Zhou Xiang

〈香港〉 Choi Man Wa 蔡敏華、梁志瞬、YEUNG KING HONG 楊經航 / 蔡金燕 (マレーシア)

〈インド〉 AAWI (AOTS Alumni Association of Western India)、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、A. P. Wagle、Abul Sharah、Ashok Saraf、雅留宮久磨 (在日) / 澄子 (日

本)、M. Ramamurthy

〈イラク〉Mudhafar Al. Jabiri

〈インドネシア〉Budhi Setiawan Kohar

〈カンボジア〉忍足林基 / 美恵子 (日本)

〈日本〉新井重光、荒川雄彦、池添尚行、池野朋彦・晶子、池森亮介、伊佐玲子、石井信彦、石原誉慎、石原廣、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、伊藤源之、伊藤順 (2)、岩尾明、岩佐佳英、上高子、植田泰史、畝本昌介、漆鳥才子、大久保伸枝、大澤龍、大谷里恵子、大村光、小木曾建 (4)、小木曾大、小木曾友 (3)、奥山節子、奥山義夫、小野里光博、小野寺武夫、小原正敏、加倉井弘行、勝部純基、河合秀高、川上剛、川崎依邦、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰 (2)、久津間優子、工藤正司、工藤幹夫 (3)、久保哲也、倉内憲孝、栗原静子、黒田一雄、香月恵美子、小林泰子、金野隆光 (3)、齋藤美知子、早乙女和義・博子、酒井杏郎、佐藤郁夫、佐藤正文 (2)、佐藤玲、渋谷寧伸、清水勇治・泰代、尚美学園大学国際交流センター、白石勤、菅原照代、鈴木八重子、栖原暁、高木桂子、高道俊彦 (2)、高野靖子、高橋喜久江、高橋作太郎、高柳直正、田川明子、宅間薫、田口昌子、竹嶋俊紀、竹田肇・和子、竹林惟允 (2)、田中多美子、田中稔子・静子、田中美智子 (2)、田中利恵子、谷口哲雄、田守智恵子 (2)、近山武子、土屋幸子、土屋元子、鶴尾能子、寺尾方孝・三枝子、鍋田純一・由美 (2)、堤祐子、戸田清、外山経子 (7)、豊島由久、中曾根信 (2)、中畠正喜、中原和夫、中元菅根、西垣幸朋、西嶋勝彦、西谷隆義、新田宣子、西原彰一、西村清人、西本梶、忍足絵美、忍足真理、野口明美、野村美知子、秦幸吉、濱田洋子、林均、樋川好美、平井まりこ、平岡明子、平峯克、深澤のぞみ、福譲二、藤原一枝、布施知子、細川哲士、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、横操、牧美保子、松井正枝、松岡弘、松崎松平、宮内俊治、村山秀男、森尾正照、藪下勝、山海保、山口憲明 (3)、山崎光郎 (2)、山田守一、山田裕子、山之内正彦・萩子、湯山佳代、依田良子、吉田菜穂子、吉田裕子、吉原エツ子、六文会、Ch atty B.Q. (ワタナベ)、渡辺譲二、匿名希望 (3名)、50周年委員会売上 (2)

〈韓国〉禹守根 (在中国)、韓英鳩、崔銀珠、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook 尹誠國

〈マレーシア〉Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、CHANG CHEW CHIN 張昭成、CHEW CHONG SENG 周昌盛、CHIA LITECK 謝礼得、Chiu Jin Eng 冰周人英 / 林惠冰、CHONG TEEK FOH 張德福、EE LEY TIONG 余励忠、FOO MING LIAN 符明蓮、FOO SIANG SENG 符祥盛、FOO SOO KONG 符素光、Gan Teck Yeow、HEONG SEE YONG 香世運、KENNETH WONG 黃復翔、LEE KIAN LING 李建霖、LEE KONG/LAM CHOK YAK、LEE MIOW YING 李妙英、Lee Tee Boon、LEONG KEE HUO 梁其和、LIEW TECK BOON 劉德文、Lim Hock Lai、LIM PENG JIN (Scientex Incorporated Bhd)、LIM SIN YEAN 林欣燕、LOKE HON YEE 陸漢宇、LOW KIM LEE 劉金莉、NG TIAN ENG 黃殿英、ONG CHENG CHUAN 王清川、ONG CHOOI LEE 王翠莉、PANG CHOON BOON 彭俊文、POH SIEW HUI 傅秀慧、Seah Boon Chieng、SIM KEE HONG 沈其豐、Soon Sai Kheng、SOO SECK HENG 蘇錫興、SU KUI SHENG 蘇桂昇、Tan Cheet Yong、TAN KEEHANG 陳繼漢、Tan See Seng 陳時生、TAN SOO SIN 陳素芯、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、TANG ENG HUAT 陳永發、TENG KIM YIN 鄧錦雲、TEO KWEE SWEE 張貴水、Tiang Chuan Seong 鄭俊雄 Toh Leong Chee、WONG FEE PING 黃慧萍、WONG SENG KENG 黃成耕、WONG TZONG CHYANG 黃宗強

〈ミャンマー〉Aung Kyaw

〈パキスタン〉 A.R.Siddiqi

〈ペルー〉 Olga Shimada Keiko

〈シンガポール〉 Foo Choo Wei (在日)、
顔尚強、王堯其〈台湾〉 Chen Ai Chi 陳艾圻、張忠信 (在日)、
Liu Li Mei、堤井信力 (在日)、廖婉淑、

〈タイ〉 浅見博子 (在タイ)、Bandihit

Rojarayanont、Chamlong Srimuang、

Chanintorn Mekaratana、Chovet

Yimsirikul、Ditdi Chatputtongul、

Gannnigar Koontanakulvong、神崎ソラ

ダ (在日)、Kornkeo Praisontarangkul、

Krisada Visavateeranon、Meena

Thamchaipenet、Mongkol

Pianapitham、Navarat Srisuponvanit、

Niramai Thanatavee、小野崎

忠士 (在タイ)、Patamavadee

(Bongsayan) Narushiso、Phiphat

Chaichanavichakij、Pholchai

Limviphuvadh、Pilaipan Mekaratana

(2)、Pisan Thanatavee、

Pornanong Niyomka H.、Prayad

Kongkasawad、Prayoon Shiowatana、

Saowanee Patrakarn、Sathida

Mekaratana、新宅光 (在タイ)、

Sivaporn Sirilatthayakorn、Sucharit

Koontanakulvong、

Suchittra Hunbuncharkit (2)、

Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett Suvit Vibulsresth、

Tana Tangtrongsakdi、泰日経済技術振興協会、泰日工業大学 (THAI-NICHI INSTITUTE OF

TECHNOLOGY)、Vachiranee Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、

Virat Thiravathanavong、Wannadee O'sorup、

Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三 (在タイ)、Yoshiko Limviphuvadh

〈ベトナム〉 Dao Thi Minh、ドンズー日本語学校、Le Quynh Chi、To Buu Luong、

Nguyen An Trung、Tran Thanh Viet

2012/1/31 現在 ABK 同窓生募金集計

国・地域	件数	合計額	備考
日本	274	15,354,712	含、在外 含、同一人複数回
タイ	47	5,030,426	内、日本人4(¥143,333)
マレーシア	131	4,974,125	含、在日他
ベトナム	6	1,413,000	含、在日
中国	38	1,890,000	含、在日他
韓国	7	420,000	含、在日他
ブラジル	10	497,015	
カンボジア	1	300,000	在日
インド	7	190,000	含、在日
シンガポール	5	210,000	含、在日
台湾	7	135,000	含、在日
香港	3	70,000	
ミャンマー	1	50,000	
バングラデシュ	2	40,000	含、在日
イラク	1	10,000	
インドネシア	1	10,000	
パキスタン	1	10,000	在日
ペルー	1	10,000	在日
ラオス	1	10,000	在日
合計	544	30,624,278	

前号 (494号) の本コーナー内に誤りがありました。お詫びして下記の通り訂正をいたします。

● P32 1行目 誤「2011年11月31日現在」 → 正「2011年11月30日現在」

● P32 8行目 誤「今野隆光」 → 正「金野隆光」

ABK 同窓生募金に関するメール

2011/12/21 小木曾友(財)アジア学生文化協会理事長

水馬(橘)愛子様(ブラジル)へ クリスマスカードありがとうございました。今年は本当にお世話になりました。「ABK 同窓生募金」は、10月末には1500万強で、第一次目標である2月末までに3000万円達成は到底不可能であると思われましたが、さらに協力をお願いを熱心に進めたところ、マレーシアの同窓生たち(特に1980年代初期、日本留学に入管が身元保証人という厄介な義務を負わせましたが、ABKが肩代わりして保証人を引き受けるという制度を法務省と掛け合って実現し、800人もの留学生の身元保証人を引き受けていたことがありました。その人たちが主となって)に火がつき、その熱意が日本へも波及して、結局11月1日～12月20日の間に、約1000万円、合計2500万円の寄付が集まりました。ほんとうに奇跡が起こったのです。ありがたいことです。これから、来年にかけて、まだまだ協力してくださる方は、多いので、大いに期待しています。そういうわけで、クリスマスの思いがけないプレゼントをいただきましたことをご報告いたします。来年もよろしく願いいたします。良い年をお迎えください。

2011/12/26 小木曾友(財)アジア学生文化協会理事長

黄國鳳様(マレーシア;在日) お早うございます。お元気ですか。このたびは、「ABK 同窓生募金」にご協力くださり、本当にありがとうございました。Kenneth Wongさん、ANG KHOON CHYEさんはじめ、マレーシアの同窓生の皆様の熱心な活動には、本当に、何と言っ

てお礼を申しあげていいか、言葉が見つかりません。深く深く感謝申し上げます。皆様からの温かいご支援によって、募金目標額(5000万円)は必ず達成できると確信しています。(12月25日現在、2500万円を超えました。11月、12月で約1000万円のご寄付がありました)。そして、新しい(学)ABK日本語学校(仮称)は、必ず素晴らしいものになると、信じています。黄さんは、日本在住ですよ。厳寒の折、くれぐれもご自愛ください。

2011/12/26 Mr. Kenneth Wong (マレーシア)

小木曾理事長様へ こんにちは。ご報告致します。先週、皆様に1983～1990年度同窓生リストを送付終了しました。再びメールで寄付金の件、呼びかけをしましたので、そのメールを添付致します。歴代先生のメッセージは入手しましたら、宜しく願います。また、先輩の昨日のメール情報で、二度目の送金は来年1月の中旬位に行くことを予定してます。アンさんのほうから、来年早々に情報が来ると思います。金額的には前回とほぼ同じです。(マレーシア政府送金制限の為)「一燈やがて万燈となるごとく」。これは小木曾さんから教えられ言葉で、これを考えながら5千万円目標を皆様と一緒にと向かって頑張っていきたいと思っております。本当に時間が経つのが早いです、良いお年を元気で迎えてください。来年も本件宜しくお願い申し上げます。Thanks and Best Regards,

2011/12/27 Mr. Ang Khoon Chye(マレーシア)

Thank you very much. We are going to

send out second batch of Alumni Fund to ABK soon (2nd week of January). Happy new year to all ABK-san. Regards,

Mr. Chong Piang Wee (张炳辉 ; マレーシア)

ご無沙汰致しました。いや、日本留学時代で貴協会に大変お世話になり、奨学金まで頂きながら、本来ならばもっと還元すべきところで、誠に恥ずかしいながら、僅かの金額でありながら、何かのお役に立てればと思います。またの機会では是非とも宜しくお願いします。

2011/12/29 Mr. Chong Teek Foh, Ms. Chow Soo Lin (マレーシア)

ご無沙汰しております。領収書を受け取りました。ありがとうございます。日本は昨日から仕事納めのところが多いと思いますが、ABKの職員方々もおなじでしょうか？ 来年もよい年であるように祈ります。よいお休みを過ごしてくださいませ。

Mr. Lim Yok Chai (林意財 ; マレーシア)

お久しぶりです。日本の皆様のお掛け様で、毎日元気で頑張っております。わざわざご連絡して頂きまして有難う御座いました。これからできる限りサーポットさせて頂きます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

Mr. Tang Kok Lian (Gary Tang : 湯国亮 ; マレーシア)

Thank u so much! Yes, such a long time. Sorry to use English to reply. Hopefully we can contribute a small token to ABK. I never forget ABK n all the staff for helping us during our study in Japan. Best Regards,

Mr. Lee Tiam Hing (李天興 ; マレーシア)

お久しぶりです。下記 Email 頂きまして有り難うございます。これからも ABK の便りを、ご連絡をよろしくお願いいたします。敬具

2011/12/31 FOO HEE HIANG (符気強 ; マレーシア)「ABK同窓生募金」マレーシア側発起人グループ連絡代行役

小木曾 理事長殿 お早うございます。昨日にマレーシア側発起人グループのメンバーの一員である Gary Tang さんの新居パーティにて、この活動における進み方について打合せを行いました。理事長殿にお願いする事項がありましたので、結論を簡単に説明させて頂きたいと思います。現在連絡が取れている元留学生は、ABK 日本語コースの卒業生ではなく、在日保証人が ABK になっていた留学生が殆どでした。発起人グループメンバーの構成も 80 年代前半の留学生が多いので、ABK の卒業生への連絡が難航しています。ABK 同窓生への連絡はあきらめませんが、募金目標達成することを優先的なターゲットに切り替えて活動を行いたいと結論しました。ここに、グループリーダーである黄金財先輩、汪坤才先輩達は 70 年代の元留学生との繋がりをもっていることから、経済能力が一層上にある 70 年代の元留学生へのアプローチを行いたいと考えています。しかし、これらの先輩達は ABK との繋がりが殆どなく、ABK の存在も知らないかも知れません。アプローチする場合には強い説得力のある資料をもって行う必要があると判断しています。1) 今まで、ABK がマレーシア留学生を保証した人数 2) 今まで、ABK 日本語コースを卒業したマレーシア留学生の人数及び毎年的人数占め率 3) この募金活動の由来、活動、目標、状況サイトから掲示されていますが、何かパンフレットとかの資料がありますか？ また、日本語以外のバージョンがありますか？ いつも無理なお願いで、誠にお手数をかけて申し訳ありません。最後、ABK の皆様に よいお年

を！ 来年も宜しくお願いします。

2012/1/7 山本 出

小木曾友理事長殿 謹賀新年とありたい2012年です。昨年暮れに御手紙を頂戴、ABK 同窓会募金に、本日5万円を銀行経由振り込みました。日頃の感謝の印ばかりですみません。暮から正月は、かつてのタイ留学生夫婦（農大の小生の所で博士号をとる）に洪水との闘いの疲れを癒しても

らおうと、我が家に招き、正月1～2日は夫妻と家内とを乗せ、福島県小名濱の娘夫婦をたづね、津浪被災地を見て回りました。往復500kmをドライブ、まだ余力があるようでしたが、さすがに翌日はぐったり、寄る歳波（ $12 \times 7 = 84$ 歳）を感じました。協会にとり大事な折、御自愛のほどお祈り申し上げます。

2012/1/9 小木曾友（財）アジア学生文化協

2012/1/31 Ng Kim Chai（黄金財；マレーシア）

ご丁寧に私あてのメールを送って頂きありがとうございました。また返事が大変遅くなって申し訳ありません。この度のABK 同窓生募金活動において、小木曾理事長をはじめ、ABKの皆様は本当にお疲れ様です。2010年から始まったABK 同窓生募金活動は、マレーシアとシンガポール両地でABK 同窓生及びABKにお世話になった元留学生の呼びかけによって行って来ました。恥ずかしいですが私はかなり後になって知りました。2011年の末に“マレーシア ABK 同窓生募金発起人”が11名のメンバーによって発足され、私もメンバーの一員です。このグループはまだ具体的な募金目標を設定していませんが草根活動を黙々と行っています。かつて、私費留学生にとって“身元保証人”というのは、日本へ留学する際の大きな障碍でした。1979年の末ごろマレーシア留日学生会はABK 留学生相談室を通じて、マレーシア私費生の身元保証人を引き受けてほしいとABKに要請しました。1980年の10月に数人のマレーシア私費生は、ABK 田井理事長名義の身元保証人の引き受けを頂き、日本への留学を実現しました。1981年からマレーシア政府のLook East政策の影響もあり、ABKの保証で日本へ留学したマレーシア私費生の人数が顕著に増えました。又、ABKの補習クラスは、最初数人の日本人大学生ボランティアが先生としてスタートし、その後マレーシアの先輩たちも先生陣に加え、多くの私費留学生に日本語と基礎科目の学習の場を提供しました。そのころから、マレーシアの留学生はABKを勉強と活動の場所として利用していました。ABK補習クラスは荻田先生の手によって種まきされ、やがてABK学校事業の“苗”になり、1983年4月に“ABK日本語学校”に成長しました。最初の数年間はマレーシアの学生が半数以上を占めていました。これはABKとマレーシア留学生との関係が非常に親密であることが言えます。ABKは上記のこと以外、留学生来日後のアパート探し、日常生活の悩み、大学進学などさまざまな問題もよく面倒を見て頂きました。なお、多くのABK職員は外国人研修生と留学生を援助する事業に生涯を捧げて仕事する姿を見て、私たちはその“穂積精神”に対して非常に尊敬しています。ABKのお陰でほとんどのマレーシア留学生は順調に大学・専門教育を受けることが出来ました。私たちは帰国後、日本の企業に限らず現地又は欧米系の企業にも就職が出来、国の発展に大いに貢献をしています。又、創業しビジネスに成功した元留学生も少なくありません。私たちマレーシア元留学生は、ABKに援助と教育のチャンスが与えられ、その恩恵は一生忘れられません。私たちは“飲水思源”の気持ちでABKに恩返しをするつもりです。

会理事長

Kenneth Wong 様 明けましておめでとうございます。昨年は本当に本当にお世話になりました。Wong さんはじめ、マレーシアの皆様のご尽力には、何とお礼を申し上げていいか、言葉がみつかりません。おかげ様で、募金総額は、12 月末で、2600 万円を超える勢いで増え続けています。この勢いでいけば、第 1 次目標である 2 月末まで 3000 万円を達成するのも夢ではなくなりそうです。私たちは勇気を得て、さらに努力を重ねたいと存じます。今年も何とぞよろしくお願いいたします。感謝の気持ちを込めて。

2012/1/9 Kenneth Wong (マレーシア)

小木曾さん 新年あけましておめでとうございます。今年も宜しく申し上げます。さて、年末でマレーシアの MS. QUAH SOON TEE と連絡をやっと取りました。彼女は 95 年の同窓生で、姉も同じ大学で勉強されたとの話も聞き及んでおりました。両方も山梨大出身ですね。募金の方も多くの人に知らせようと言っておりました。寄付金は彼女が直送か、我われを通じてするのかをまだ現在決めておりません。必ず、期待できます。また、もう一人の 84 年の同じクラスで勉強した、劉少峰も年明けに電話で連絡を取りました。明治大出身です。今現在は日本で三菱系の新菱冷熱工業（株）で、彼はすごいことに二十何年以上もこの一社に勤めております。本当に尊敬します。（今関東支店で駐在）お蔭様で、この親友との会話は実に二十何年ぶりです。大昔、一回彼は日本からシンガポールに出張の時に会って以来ですね。彼の寄付金は直送になると思います。多いに期待は出来ますので、宜しく、御願います。以上です。Thanks and Best Regards,

2012/1/11 Foo Hee Hiang (符気強; マレー**シア)**

アジア学生文化協会 小木曾理事長殿 こんにちは。今日付で、Ang Khoo Chye 先輩から、「ABK 同窓生募金」に対する、元マレーシア留日学生から預かった寄付金を送金しましたことを連絡させていただきます。添付ファイル、「2nd TT Slip」の送金明細伝票及び「2nd TT 寄付者リスト」の寄付者詳細ファイルを参照して下さい。それに、こちらがずっと更新して使っている Excel ファイルもご利用に送りますので、宜しくご査収願います。

2012/1/12 小木曾友(財) アジア学生文化協会理事

「ABK 同窓生募金」マレーシア側発起人グループ連絡代行役 Foo Hee Hiang 様、Ang Khoo Chye 様、皆様 明けましておめでとうございます。下記、確かに受信いたしました。本当にありがとうございます。おかげさまで、寄付総額は、昨年 12 月末で、約 2600 万円に達しました。（11 月、12 月で 1000 万円以上！）マレーシアの皆様のご活躍ぶりを『アジアの友』で特集したところ、日本国内でも反響を呼び、ABK 同窓生以外の方々からも寄付が集まり始めています。1 月 6 日、面白いことがありました。陳少勤さん（広島大出身、東芝勤務）が、奥様と子供さん 3 人を車に乗せて、ABK を訪問して下さいました。それが、なんと、「新しい校舎を見にきた」と言われるのです。私たちは、びっくりするやら、恐縮するやらで、校舎ができるのはまだ 1 年先、と申し上げましたが、もう皆様がそんなに期待してくださっているのか、と思うと、うれしいと同時に、身の引き締まる思いでした。今年もよろしくお願いいたします。

2012/1/13 小木曾友(財) アジア学生文化協会理事

劉少峰（ラオ・サウホン）様。劉さん、お久しぶ

りです。このたびは、ABK 同窓生募金に多額のご寄付をいただきまして、本当にありがとうございました。Keneth Wong さんはじめ、ABK マレーシア同窓生の皆様の温かいご協力には、何とお礼を申し上げていいか、言葉が見つかりません。皆様が、かつて ABK に在学、在館しておられた時の、ほんのささやかなお世話が、こんなに大きな return となって返って来ることがあるなどと、当時は夢にも思いませんでした。そう思うと、私たちは深い感謝の気持ちとともに、果たして責任が果たせるのか、と身の引き締まる思いです。お陰さまで、2 月末まで 3000 万円という第一次目標には、何とか到達できそうなところまで参りました。私たちは、勇気を得て、さらに最終目標の 5000 万円に向かって、これからも邁進したいと存じます。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。寒さ厳しき折、くれぐれもご自愛ください。

2012/1/14 Kenneth Wong (マレーシア)

理事長様 お早うございます。マレーシアのケダー州出身 MS. QUAH 姉妹からのメールを転送致します。宜しく願います。Thanks and Best Regards,

Hi Quah san, How do you do? I HAD INFORMED our conversation by email to Mr. Ogiso last week during the near yr greeting to him. Pls see below email exchanged. And do you have more contact in your northern side? Pls do let us know. And also kindly inform us would you want to go through us (remit your funds to us) or you prefer to donate Directly to ABK ? at the moment we are gather all kind of information. We hope that we can united in one, and send together the funds to them. So far, we sent twice since DEC 2011.

The amt was nearly RM 100K now. We targeted to send again next Month. The official cut of date here (arranged by us)is 15/FEB as you might read the email. Thank you, Thanks and Best Regards, Kenneth Wong(2012/1/12)

Dear Kenneth, Thank you for reminding. Please give me the account number for bank in, prefer Maybank. My sister and I would like to donate RM 400 respectively, total from us is RM 800. I cc my sister email address, she may share with you if she know any from ABK in Penang area. Thank you. Best regards, Quah Soh Teah(2012/1/13)

2012/1/23 FOO HEE HIANG (符気強 ; マレーシア)

ご苦労様です。今こちらは旧正月で、今度土曜日(28日)にはまた ABK 同窓生募金のために Tang Kok Lian さんの家で元留日学生の新年会を開きます。今度対象している方々は、70 年代の元留学生がメインになって、金財先輩や坤才先輩のつながりをもって、うまくこれらの大先輩達から協力を得られましたらと、皆は期待しています。よい結果になるよう、頑張りたいと思います。

2012/1/24 Mrs.Pimpilai Lertphaiboon : President, ABK & AOTS Alumni Association (Thailand)

Dosokai committee will have meeting on 27th Jan'12. We will follow the schedule of ABK 44th Anniversary & Raising fund to ASCA, me and Maliwan san will co-operate closely to you. Pls inform the postpone date 22nd March 2012 to your guests and if possible, we need more guests from Japan

participate the party. Best regards,

2012/1/28 FOO HEE HIANG (符気強; マレーシア)

こんばんは。取り急ぎ今日の募金の結果を連絡します。今日 Ng Kim Chai 先輩、Ang Khoon Chy 先輩及び Gray Tang Kok Lian の協力により、元留日の大先輩達から百二十万円を寄付する約束をもらいました。また、寄付金は直接 A B K へ渡すことになっています。下記に示した先輩達の内から、二人での合計約束寄付金は百二十万円になっていますが、その他の先輩も直接 A B K へ寄付することも考えられますので、前もって連絡させて頂きます。Dr. Beh 先輩から、マレーシアの元留日の学生から十万円を寄付した協力者に、A B K からの領収書を持参してこれば一度 Heart Scan 検査を無料で行なうと宣言をしました。Dr. Beh も2月上旬に日本へ行ので、A B K を尋ねる予定になっています。

2012/1/30 Beh Chor Kim, Dr. (マレーシア)

I will be in Tokyo from 4-6 Feb. I intend to pay you a visit. When would be a good time to visit? I am happy to report that the ABK Dosokai members in Malaysia are moving the

Donation drive in high gear for the next 2 months. Hopefully we have good results to report to you. Best regards

2012/1/29-31 李焱 (中国)

ー メールありがとうございました。ご無沙汰しており申し訳ございません。私の作品を贈らせていただきます、よろしくお願いいたします。大きな作品ですと額装など色々大変ですし、今の日本の状況ですと、大きすぎるとあまり売れないようです。色紙大のものを複数ではいかがかと思って

おりますが、いかがでしょうか。協力させていただくこと、嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

ー お返事有り難うございます。これから制作します。作品が出来ましたら連絡いたします。直接 AKB にお持ちいたします、皆様にもお会いしたいので。どうぞよろしくお願いいたします。

2012/2/4 FOO HEE HIANG (符気強; マレーシア)

こんばんは。個人的な付き合いへの呼び掛けはそろそろ限界にきています。これからマレーシア留日学生会 (JAGAM) の協力により、会員へ回覧を回してもらっています。既に、KL 本部と Penang 支部がメール回覧を発送した様です。残り、Johor 支部だけです。また、下記の FaceBook Group に掲載しましたので、このグループは元留日学生が多いです。何か反応が得られると思いますが、多い期待は無理かも知れません。

2012/2/5 FOO HEE HIANG (符気強; マレーシア)

ー 皆さん 今日付の募金まとめを送付します。マレーシア関連の募金は約7百万円になりました (Kenneth さんの手元の未送金分を除く)。一千万円をターゲットにしましょう、あと RM120 ~ 130 K だけです。Jagam、日本人会及びその他の繋がりで頑張りましょう。今日にて在馬、シンガポール、日本にいる、私の関連の日本人の方々へメール発送しました。あまり期待出来ませんが、上記の RM130K を少しずつ減らして行きましょう。Malaysia BOLEH !!!

ー こんばんは。仕事遅くまでご苦労様です。先日私が知っている在馬、シンガポール、日本にいる日本人の方々に募金協力依頼のメールを発

送しました。ある程度の協力は頂けると考えています。一人に一万円を協力して頂ければ、1000 人では一千万円になる考え方で努力したいと思っています。取りあえず一回目に呼び掛けたのは、日本への呼びかけ（10 人）、シンガポール・マレーシアの会社駐在員への呼びかけ（22 人）でしたが、また今度別の方々にもお願いしてみます。取り急ぎ連絡します。

2012/2/8 FOO HEE HIANG (符気強; マレーシア)

お早うございます。段階的に下記の Facebook で刺激していますが、いい反応が得られるよう期待しましょう。皆様に直接 ABK へ寄付するように呼びかけていますので、こちらから代行振込みは控えています。必要がありましたら、またこの Facebook に掲載します。ご参考まで下記の Facebook を参照して下さい。

<http://www.facebook.com/groups/jagongJ>

NB/174530912656227/?notif_t=group_activity

2012/2/13 FOO HEE HIANG (符気強; マレーシア)

夜遅くご苦勞様です。また、資料の提供、有難うございます。こちら元文部省奨学金留学生からの反応が出て、マレーシア及びシンガポールの方からいい便りが入ってきています。今日で約 40 万円の寄付金が入りました。2 月分の目標もまた達成出来、来週には 5 万リンギットの送金を予定しています。シンガポールの方は Kennethさんから ABK へ送金してもらいます。ご参考 Ngさん及び Angさんが作成した元文部省奨学金留学生の呼び掛け文章を送ります。また、Ngさん及び Angさんがマレーシア日本会へのアプローチレーターを作成しており、出来次第日本人会へも接触してみたいと思います。

16 January 2012

Dear Foo Keah Keat and Fellow Monbusho Scholars,

Request For Donation To ABK Japanese Language Institute (ABK Alumni Fund)

We are a group of Japan graduates in the 1980s.

As we all know, it is necessary for those who intend to study in Japan to have a Japanese guarantor. As a result, privately financed students like many of us suffered a great hardship in getting a Japanese guarantor. In order to overcome this problem, MSAJ sought the help of Asia Bunka Kaikan (ABK), a non - profit Japanese organization in the late 1970s early 1980s.

Subsequent to various negotiations, ABK agree to nominate their Director General as Malaysian privately - financed students' guarantor.

In 1981, our government introduced "Look East Policy" dispatching government - sponsored students to Japan for further studies. Due to the policy the number of Malaysian privately - financed students had increased tremendously since 1982. Without the help of ABK as guarantors, this could not happen.

Besides, ABK also helped Malaysian students by providing counseling services related to entrance examinations as well as problems in everyday life. In 1983, ABK started Japanese language education

providing program designed for international students who wish to enter Japanese higher education institutes. Since then, thousands of Malaysian privately - financed students had benefited from the program. This is why we have continued our involvement with ABK enthusiastically as they had helped us a lot.

Unfortunately, after many years of their dedication and involvement in education, ABK Japanese language education has not been accredited as a Japanese language institute due to many restrictions. To become a legally authorized Japanese language institute, ABK are required to rebuild the building to meet the authority requirements. Besides, they are required to possess adequate operation fund of 50,000,000 (Fifty millions) Yen to guarantee school operation by the legal regulation. This is the purpose of ABK Director General Mr. Ogiso setting up 'ABK Alumni Fund' to raise 50,000,000 (Fifty millions) Yen.

We understand that many of the Monbusho Scholars are not related with ABK. However, we strongly believe that their donations, regardless the amount, will help ABK providing a better teaching quality and environment to our next generation who wish to study in Japan. This is why we are writing to you and asking for your support.

We are enclosing additional information about 'ABK Alumni Fund' for your reference. Please feel free to contact us if you have any query.

Thank you for taking time to read this letter. We really appreciate it if you could donate

money to ABK.

Yours sincerely,

Initiators of 'ABK Alumni Fund' raising campaign in Malaysia:

Ng Kim Chai, Ang Khoon Chye, Tan Boon Liang, Tey Chong Yee, Lee Mow Thiam, Tang Kok Lian, Soh Keh Woei, Chang Chew Chin, Foo Hee Hiang, Kenneth Wong, Leong Thiat Eng

Remarks:

All donations to ABK can be made as follows:

1) Payment by credit card: Please visit < http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund_e.html > for details.

2) Payment by bank transfer to ABK: Bank Name : Mizuho Bank, Hongo Branch Account No. : 2789045 Account Name : Asian Students Cultural Association Association's Address : 2 - 12 - 13, Honkomagome, Bunkyo - ku, Tokyo.

3) Payment by bank transfer to our representative: Bank Name : MAYBANK (BANDAR SRI DAMANSARA BRANCH) Account No. : 514392504401 Account Name : ANG KHOON CHYE

All donations collected will be transferred to ABK. Official receipt will be issued to all donors by ABK via e - mail.

For recording and correspondence purpose, donors are requested to forward bank - in slip, name, e - mail address and contact no. to : i) Foo Hee Hiang < ggfoo@hotmail.com >, Tel : 016 - 2136749 or ii) Ang Khoon Chye < angkhoonchye@gmail.com >, Tel : 012 - 2836718, Fax: 03 - 6272 - 4570.

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

後記

小木曾理事長の必死の働きかけとお願いがマレーシア元留学生を動かした。ABKが1983年に日本語学校を新たにスタートさせる火付け役になったマレーシア留日学生会の元マレーシア留学生が中心メンバーとなり、今度は、ABK同窓生募金の発起人をマレーシアに立ち上げた。シンガポールで働く者もいる。2011年11月下旬に立ち上げ、早速マレーシア1,000万円の目標掲げ海外にまで広がる大きなネットワークが始動を始めた。そして、たった2.5か月でその目標を8割方実現させているのは今更ながら驚かざるをえない。何が、そこまで働き盛りの忙しい彼らを突き動かしているのか。Ng Kim Chaiさんからいただいた返信のお便りで、奥深さに触れた。理事長が、この手紙を見て「涙が出た」と。そして、「穂積精神は、タイだけでなく、ここにも生きていたのですね。」と。ここで仕事に携わる者すべてに、また、日本の皆様に読んでいただきたく、本誌に掲載させていただいた。そして、発起人のメンバー全員が、同じ気持ちで、我々の要請にこたえ、協力してくださっていることが、この間の皆様方とのやり取りで分かってきた。メンバーの一人、Ang Khoon Chaiさんが元国費留学生に宛てたご協力要請文（英文：本文に掲載）も同様だ。ただただ感謝の気持ちでいっぱいだ。（F）

穂積先生に長年寄り添い支えてきた当協会前理事長田井重治氏が2月16日永眠された。享年89歳。facebookを通じて知ったと、「マレーシア留学生・卒業生一同」、「ABK同窓生募金発起人一同」の献花が斎壇に登っていた。在日で、皆さんの代表としてChuah Yeonhangさんが通夜に来てくれた。翌日、彼からこんなメールが、届いた。「田井先生の御通夜でABKの皆様と何十年ぶりにお会いでき、大変嬉しいと思います。田井先生及びABKの皆さんが沢山のマレーシア人留学生を世話した事は我々卒業生の間では忘れる事が有りませんので、この場を借りて、再度感謝したいと思います。田井先生本当にありがとうございました！」。発起人の一人Foo Hee Hiangさんからも「私が日本に留学する時の在日身元保証人、アジア学生文化協会前理事長田井重治先生が先日亡くなられました。私はABK日本語学校の卒業生ではなかったですが、ABKが身元の保証をなさって下さったお陰で日本へ留学することが出来ました。残念ながらこの募金活動は先生の前に完成させることが出来ませんでした。」とのメールをいただいた。今、ABK日本語学校の新校舎建設と学校法人化のための募金協力を皆さん熱心に動いてくださっている。我々の仕事の原点を思い起こさせてくれている。（F）

アジアの友 2012年2・3月号

2012年2月20日発行（通刊第495号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ: (http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000円）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力をお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。これまで長年にわたって ABK と縁を結んだ方々皆様（留学生 OB・OG をはじめ、日本人関係者）にご協力をお願いしています。なお、ご寄付して下さいの方は、そのお名前を、金額の多寡にかかわらず、記念銘板に刻印し、長く保存させていただき考えております。また、高額寄付者への顕彰を別途用意いたします。世界的な不況の折、誠に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)
理事長 小木曾 友

募金内容

- | | |
|---------|--|
| 1. 名 称 | 同窓生募金 |
| 2. 目標額 | 50,000,000 円 (伍千万円也) |
| 3. 寄付金額 | 一口 10,000 円 <一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上でお願いします> |
| 4. 使 途 | ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。 |
| 5. 募金対象 | ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様 |
| 6. 期 間 | 2010 年 4 月 1 日から 2 年間 |
| 7. 送金方法 | 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。 |

1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)

寄付のお申し込み <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

*セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) でお願ひします。

2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)

銀 行 名	みずほ銀行 本郷支店
口座番号	普通預金 NO.2789045
口座名義	財団法人 アジア学生文化協会
住 所	東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121

3) 郵便振替による送金

郵便振替口座	00150-0-56754
加入者名	財団法人 アジア学生文化協会

*振替用紙は「アジアの友」に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp